

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年4月12日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0893100073		
法人名	社会福祉法人 親愛会		
事業所名	グループホーム ウィステリア倶楽部	ユニット名	西館
所在地	〒311-3115 茨城県東茨城郡茨城町前田1707-349		
自己評価作成日	平成27年9月21日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0893100073-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0893100073-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年11月25日	評価機関 決済日	平成28年4月12日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>基本姿勢として、ご本人の選択の機会を大切にし、一つでも多くの場面でご利用者様が『選択』出来るように、多くの選択肢を用意することを意識しています。また、以前の生活との連続性に配慮して、くつろげる時間や空間の工夫、また、その方の特別な日や特別な方との交流・個々のこだわりに対応し、いつまでもその方らしく過ごして頂ける居心地の良いサービスの提供を心掛けています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は閑静な住宅地の一角に立地し、居間や居室からは畑が広がって季節を感じる事ができる眺めとなっており、穏やかに暮らせる生活環境となっている。</p> <p>施設長は利用者のために「今日の今の瞬間を全力で支援する」よう職員を指導し、利用者の社会性を大切にしながらきめの細やかなサービスを実践している。</p> <p>利用者が今迄の生活と同じように地域の一員として過ごせるよう、地域の行事に参加したり、事業所の行事に多くの地域住民の参加が得られるよう工夫をしている。</p> <p>外出行事のほかに、月1回の外出と誕生者の希望での外出を始め、利用者の希望によるドライブなど、外出の機会は多く、利用者の馴染みの場所を大切にして、遠方でも職員が同行している。</p> <p>事業所では職員と地域住民とが一緒に「認知症について」や茨城町消防本部協力のもと「応急手当の講習」、「感染症について」などの地域合同研修を実施しており、地域と密着した事業所となっている。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域に貢献し、地域に育てられ、地域と共に歩みます』という理念の下、地域との交流を大切に、地域密着型としてのホーム作りを行なっている。	「地域に貢献し、地域に育てられ、地域と共に歩みます」を理念に掲げ、職員の新人研修で理念の説明をするとともに、各ユニットに掲示して日々の業務の中で理念を確認し合いながら共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を中心に、地域の行事などの情報を得、地域の祭りや公民館での展示会を見学する等、積極的に参加している。また、地域住民を事業所の祭りに招待するとともに、模擬店の販売などで祭りに協力してもらうなどして、地域との交流を図っている。	利用者は職員と一緒に子ども会主催の夏祭りに出かけ、盆踊りに参加したり、地域で開催する輪投げ大会や公民館での文化祭、地域のカラオケ大会に参加するなど、積極的に地域住民と交流している。 事業所で10月に開催する納涼祭の「ありがとう祭」では、多数の地域住民の参加を得るほか、同一法人の保育園児が来訪したり、傾聴や折り紙、絵手紙などのボランティア、高校生の職場体験の受け入れなど、利用者が日常的に近隣住民と交流できるよう支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	エコキャップ、アルミ缶の回収と寄付を継続して行なっている。また、研修会などにおいて、事業所を地域に開放し、地域住民と共に学ぶ機会を作っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、地域の委員、行政、家族会に向けて事業報告を行ない、意見を頂いている。指摘を受けたことは事業所で話し合い、サービスの向上に向けて取り組んでいる。	運営推進会議は町職員や家族等の代表2名、区長、民生委員、高齢者クラブ会長等地域住民7名の参加を得て、2ヶ月に1回地域の公民館で開催している。 事業所からは利用者の様子や運営状況、行事の取り組み状況などについて報告するほか、家族等からは公的な書類の申請等についての質問や要望が出て、町職員から説明があるなど、意見や要望をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には行政の代表者が毎回参加して下さっている。その他、法令等での疑問点や、重大事故発生時などには行政に相談・報告を行なっている。	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際や、要介護更新申請などで市担当者を訪問する機会を設けている。 市担当者から感染予防対策の指導を受けたり、運営状況や事業所の空き状況を報告するとともに、介護保険制度の改正についてや生活保護受給者の困りごとの相談を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、居室・建物の施錠を含め行わない事を前提に取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行なう場合には、家族の同意の上、期間を定め、最低限度の範囲で行なうこととする。また、定期的に必要な方法、解除に向けて検討している。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成し、ユニットに身体拘束防止のポスターを掲示して身体拘束となる具体的な行為については理解しているが、職員の研修を実施するまでには至っていない。 玄関は防犯上夜間のみ施錠しているが、ユニット入り口のドアは施錠せず、利用者が自由に出入り出来るよう、見守りで支援している。 やむを得ず身体拘束が必要になった場合の同意書等書類一式は備えている。	全職員が「指定基準において禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解できているか、年1回は研修会を開催する事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修や、全体研修において虐待防止に関する研修を行なっている。言葉かけのニュアンス一つでも虐待となりえる事を理解し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	実際に成年後見人がついているご利用者があり、後見人とは蜜に連携している。認知症の方の権利擁護に向けて、後見人と話し合う機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を使って、十分に説明し、疑問点について質問を受け、答えたうえで契約を行なっている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時ご意見箱を設置している他、運営推進会議には、毎回ご家族代表に出席して頂き、御意見を頂いている。また、月1回家族等に手紙や面会時に利用者の近況を伝えながら、何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心がけている。指摘があれば、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議・グループ会議・全体研修などの機会に自由に発言する機会を設け、提案があれば、その後の事業運営に反映させている。	管理者は月1回開催するユニット会議や全職員が参加する2ヶ月に1回の全体会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、日常の業務の中でもコミュニケーションを図り、何でも言い合える関係づくりに努めている。職員から「配膳車の購入」の提案を受けて、早く配膳ができるように改善したり、資料作成は手書きよりパソコン処理の方が効率が良いとの提案を受けてパソコンを購入するなど、職員から出た意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じて施設長が職員の努力や実績・勤務状況について把握し、法人の理事長に報告している。積極的に正社員に登用するなどの取り組みを法人全体で行なっている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的実施している。また、外部の研修に対しては希望者を募り、機会を与えている。資格取得支援を法全体で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	施設長は研修会などの機会に、日常的に他事業所の同業者と情報交換している。相互訪問を行ない、お互いに良い所を学び、サービス向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には自宅訪問し、事前調査を行なっている。聞き取りの中で、本人の意向をくみ取ると共に、家族の協力を仰ぎながら本人の安心できる環境を作り、自宅での生活の延長となるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時に家族の不安や要望の聞き取りを行ない、その事柄に対応していくことでより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査に聞き取りした事柄を考慮しながら、客観的にどのようなサービスが必要か見極め、他サービスが必要な際は勧めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の空間という事を認識し、言葉かけや立ち振る舞い、服装などに気をつけている。徐々に家族のような関係性を築けるように努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にとりながら、家族の意向を確認している。本人にとって嬉しいのは家族の面会である事を忘れずに、ご面会頂いた時には、感謝の言葉をかける事を忘れずに対応している。ご自宅への外出支援も積極的に行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会しやすい環境作りを心がけている。また、本人が外出を望む場所があれば、要望を聞き入れ、外出支援を行なっている。	職員は利用者の親戚や友人などの来訪時は、ゆっくり話ができるようお茶を出したり、希望の場所に案内して継続的な訪問になるよう配慮をしている。 職員は利用者の馴染みの店での買い物や食事、利用者の馴染みの場所の花見など、利用者の希望にそった外出を支援し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性をみて、外出時の参加メンバーや日常の席順を配慮したり、外出時の作業（洗濯物畳み等）でご利用者が自然と関わり合いをもてるように、職員が調整役となって支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、何かあれば相談等すぐに受け付け、できる限りの支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	初回または定期的にはアセスメントを実施し、日々のかかわりの中で、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認しご利用者の意向を確認している。意思疎通が困難な場合は、家族や関係者から情報を得るようにし、その方の立場に立ってよりよい方向性を検討している。	管理者と職員は、利用者の入居時のアセスメントから利用者の生活歴を把握するとともに、利用者へ寄り添いながら日常の会話の中から、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 意志の疎通が困難な利用者の場合は、家族等の来訪時に話しを聴いたり、表情や仕草から思いや意向の把握に努め、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査時に、生活歴や環境の聞き取りを行なっている。また、新たに必要な情報については、入居前のサービス提供者等からも情報収集を行なっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの居室担当者が主になり、状態の把握に努めている。また、その情報を共有し異常の早期発見に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族その他関係者の意向・意見をケアプランに反映させるように努めている。状態の変化に応じ、カンファレンスで協議を行ない、介護計画を見直し、現状に即した計画作成に取り組んでいる。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、主治医や職員の意見を取り入れ、計画作成担当者が作成している。 毎月モニタリングを行い、短期計画は6ヶ月毎、長期計画は1年毎に見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、バイタルサインや体調の好不調のみならず、表情やちょっとした様子の変化も記録し、その情報を職員全体で共有している。計画の見直し時にもその情報を利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や、家族の意向を踏まえた上で柔軟に対応し、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援に繋げている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の公民館でのイベントなどには積極的に参加している。また、地元の団体からボランティアなどで事業の手伝いを頂き、地域と協働して施設運営している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自施設の協力医療機関に捉われず、本人、または家族の意向に添った医療機関への受診を行なっている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診や協力医療機関での受診を支援している。 3名の利用者が今までのかかりつけ医による訪問診療を受診している。 医療機関への受診は職員が付き添い、受診結果は来訪時や電話で家族等に報告するとともに、「受診記録」に記載して全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置している。介護職員はバイタルサインなどの異常以外にも、些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、日々の健康管理に努めている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には直ちに介護サマリーを作成し、渡している。入院中であっても、本人の情報収集に努め、医療関係者と連携を図り、早期退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設においてできる事・できない事を明確化し、家族に伝えてい。重度化した場合でも主治医が施設での生活が出来ると判断すれば、医療機関支援を受けながら、できる限り援助し、施設での生活を支援している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、契約時に利用者や家族等に説明して書面で同意を得ている。 終末期の段階になった場合は、家族等の意向を再確認することとしているが、看取りに関して主治医との医療連携体制が確立している利用者は全員とはいえ、職員の看取りに関する研修記録を作成するまでにも至っていない。	利用者や家族等が事業所で終末期を希望する場合に備え、利用者の主治医や協力医療機関との連携を確立し、職員が不安なく対応できるよう研修とその実施記録を作成することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、状況に応じた対応が出来るようにしている。研修会において、年1回、応急手当や初期対応の訓練を行ない、振り返りをしながら、実践力の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・避難訓練を通して基礎力をつけ、消防隊員から助言等頂いている。又、運営推進会議でも災害時の協力体制について検討している。備蓄の食糧や飲料水のチェックやご利用者様に適した物となっているかの検討を定期的に行なっている。	夜間想定を含めた避難訓練を年2回行い、1回は消防署立ち合いで実施し、訓練後の職員会議で訓練状況を話し合っ訓練の記録を残している。 運営推進会議や事業所の祭事に、隣接する2地区の区長をはじめ、大勢の近隣住民の参加を得ているため、災害時に関する協力関係は築かれている。 災害に備えて飲料水や米、レトルト食品等3日分の食糧と懐中電灯などを備蓄品一覧表を作成して管理している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることを忘れずに、常に敬いの気持ちをもって、その方のその時の世界観を大切に、声かけや対応を心がけています。	管理者と職員は、年1回の接遇研修において、正しい言葉かけや対応を共有するとともに、利用者の今までの生活歴を把握して、一人ひとりの人格を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は、ユニットの鍵の掛る倉庫に保管し、情報の漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が言葉に出せない思いがあることを理解し、表情を読み取ったり、本人が答えやすく、選びやすいような働きかけを心がけ、常に「選択」できるサービスを追求し、選択の場面を増やし、自己決定していただくように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を追求し、その方の生活リズムや希望に合わせている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に整容を意識し、着衣の乱れや髭の剃り残しなどがないように気をつけている。ご本人が好みの服を選ぶよう、買い物外出支援も行なっている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の嗜好や状態に応じ、食事内容・形態の変更、代替えの食事の提供をしている。	献立は併設している通所介護事業所で作成し、副食は調理済のものが来るため、職員は主食のみ作っている。 誕生会や行事食は、利用者の希望する献立にしたり、毎月外食を取り入れて回転寿司に行くなど、食事が楽しめるよう支援している。 職員は利用者の咀嚼能力に応じてトロミをつけたり、刻み食を提供するなど、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供している。 職員は当番で食事介助を行い、休憩時間に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事チェック表にて1日の状況を把握し、その日の状況に合わせて、利用者の飲みやすい物を用意し、水分量の確保に努めている。	/	
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に状態に合わせた全員の口腔ケアを実施している。自分のできる方には声かけにより促している。	/	
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個人ごとに排泄パターンを把握し、誘導する時間や声かけの回数を変えている。できる限りトイレでの排泄をお勧めし、排泄での自立に努めている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の仕草やサインから察知し、声かけ誘導してできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。 日中はリハビリパンツやパッドを使用し、オムツに頼らず排泄ができるよう自立に向けた支援をして、オムツからリハビリパンツに改善した利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により便秘を把握し、運動やマッサージなど行ない、すぐに下剤に頼らないように気をつけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は清潔保持のためのみならず、趣向であると捉え、おひとりごとに浴槽のお湯を張り替え、その方の希望に合った入浴リズムで実施している。	週2回の入浴を基本とし、利用者の要望に応じて毎日の入浴も可能となっている。一般浴が困難な利用者は、併設の通所介護事業所の機械浴を利用している。菖蒲湯やドクダミ湯を取り入れたり、施設長の方針で利用者一人毎に湯を交換し、利用者が快適に入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活ペースで午睡したり、心地よく眠りにつけるよう、日中の活動を工夫したり、その方が落ち着く環境として、照明の明るさに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止のため、薬剤は厳重に管理している。薬剤の情報をカードックスに入れて管理し、全ての職員が薬剤の特徴に把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物や外食・外出などは、ご利用者様の意向や関係性に配慮しながら、個別や小人数での生きがい支援を行なっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい場所などの聞き取りを行ないながら、「行ってみたい」「やってみたい」の気持ちを大切に、時には、家族などの協力を得て外出活動支援を行なっている。	職員は毎朝利用者の希望で近くにある区民の花壇を一緒に見に出かけるほか、地域の祭事に参加したり、事業所周辺の散歩やスーパーへ買い物に行くなど、日常的に外出支援をしている。 年間行事として初詣を始め、季節の花見や袋田の滝など遠方に出かけているほか、利用者の希望に合わせてドライブに出かけるなど、外出の機会は多く、職員は利用者の気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、金銭を自己管理している方の見守りを行なっている。買い物や外食の時などは職員付添いのもと、会計していただいている。施設内の自動販売機も自由にご利用いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用しての家族連絡は家族の要望を取り入れながら行なっている。携帯電話をもっている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清潔保持を意識しながら、季節に応じて装飾し、外出時の写真を掲示するなど見て楽しんで貰える掲示物を心がけています。	共用空間は清潔に保たれ、高窓から明るい陽射しが差し込み、中庭に面する廊下は広く大きなガラス窓となっているため、開放感のある造りとなっている。 玄関フローには季節の花や観葉植物、絵画が飾られ季節感があり、ソファが配置されて利用者の安らぎの場所になっている。 居間兼食堂と廊下の壁には、行事の写真や利用者の折り紙作品、ボランティアと一緒に書いた絵手紙などが掲示されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるフロアにはソファがあり、自由に座ったり、休んだりできるようになっている。また、ユニット入口にもソファが置いてあり、歩行中疲れた時やふと静かな所に行きたい時に落ち着いて寛げるようなスペースづくりに取り組んでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具や馴染みのある小物などを持ち込んでいただいている。和室を希望される方は畳を敷いて和室を作るなどの工夫も行なっている。	居室にはベッドや洗面台、エアコン、ロッカー、カーテンが備え付けられている。利用者は自宅で使い慣れた寝具類やテーブル、椅子、整理箆笥などの家具類のほか、加湿器やテレビ、家族等の写真、趣味の道具などを持ち込み、今までの住まいと同じような居室づくりをして居心地よく暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故の原因を取り除き、危険が迫るまでは見守ることで、自立を支援している。移動を妨げ転倒の原因となるため、廊下や導線に物を置かないように注意している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が ○ 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム ウィステリア倶楽部

作成日 平成28年4月23日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束となる具体的な行為について、全職員が正しく理解できるよう、研修会の実施。	身体拘束となる具体的な行為について、全職員が正しく理解できる。	身体拘束に関する研修会を年1回実施。	H28.5 ～ H29.3
2	12	終末期の対応についての研修と実施記録の作成	終末期ケアにおいて、職員が不安なく対応できる環境が整う。	終末期ケアに関する研修会の実施。	H28.5 ～ H29.3
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。